

三原市の地域公共交通

～ 市北部の中山間地域における
交通弱者の移動手段の確保について ～

三原市議会 厚生文教委員会

令和2年8月

目 次

はじめに	3
第1章 久井町及び大和町の現状	4
(1) 人口減少	4
(2) 高齢化	5
(3) 地理的特性	5
(4) 公立世羅中央病院への通院状況	5
(5) 地域公共交通に関する住民の意見	6
(6) 地域公共交通の現状の分析	8
第2章 調査から見てきた課題	11
第3章 課題解決の方向性	12
第4章 政策提案	13
【提案1】久井町において、久井町内を運行区域とするデマンド型乗合 タクシーを導入する	
(1) 具体的な政策案	13
(2) 経 費	16
(3) 導入による効果	17
【提案2】久井町及び大和町から世羅町へ送迎するデマンド型タクシーを導入 する	
(1) 具体的な解決策	18
(2) 経 費	20
(3) 導入による効果	21
おわりに	22
資 料	23

はじめに

本市では、鉄道、路線バス、地域コミュニティ交通、定期航路などの地域公共交通が運行され、多くの市民生活を支えているが、近年、著しい人口の減少に加え、マイカーに依存するライフスタイルの定着などに伴い、地域公共交通の利用者は年々減少する傾向にある。

今後、さらに利用者の減少が続くと、地域公共交通は衰退し、適切な運行サービスの提供が困難になることが予想される。

とりわけ、高齢化や過疎が進んでいる市北部の中山間地域においては、利用者の減少に伴い、公共交通が脆弱化するという悪循環が顕著となり、「地域に医療機関や商業施設が少なく、自動車の運転免許証を返納しようにも、それに代わる公共交通機関がない中で、安心して返納できない」といった声があるなど、高齢者はマイカーに依存せざるを得ない状況がある。

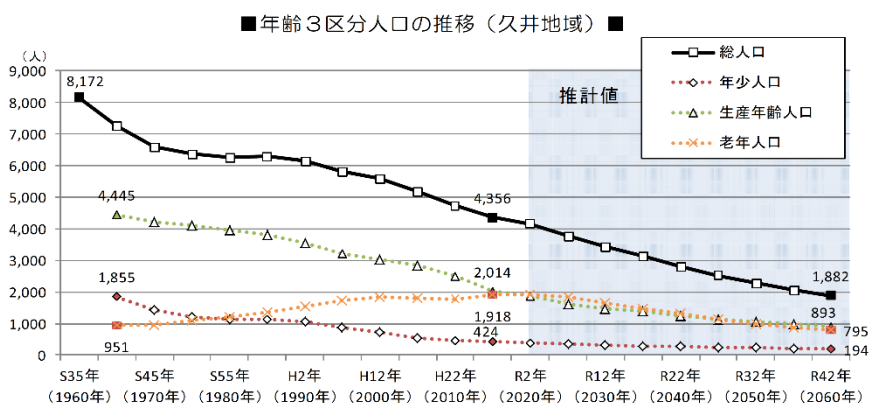
このことから、特に久井町や大和町の中山間地域において、利便性、安全性、経済性を兼ね備えた市民生活を支える交通手段の確保が喫緊の課題であると捉え、厚生文教委員会では「地域公共交通」に着目し、市北部の中山間地域における交通弱者の移動手段の確保について、重点的に調査・研究を行うこととした。

第1章 久井町及び大和町の現状

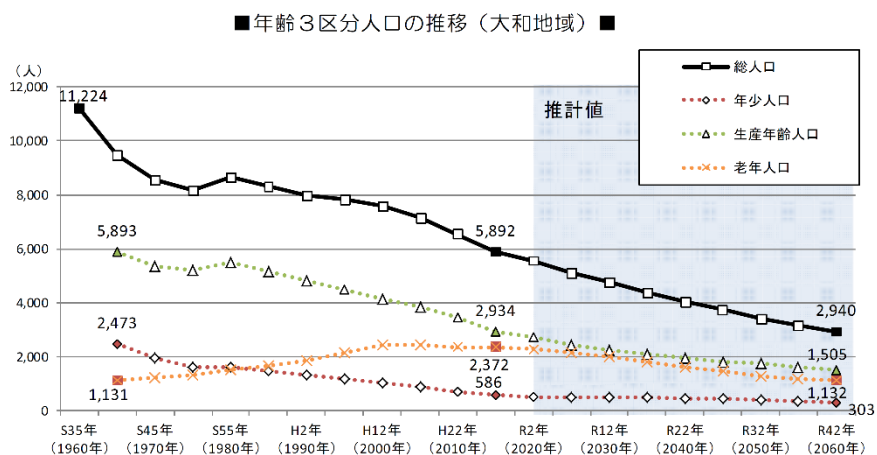
(1) 人口減少

市の総人口は令和2年3月31日時点で92,669人,そのうち久井町は4,193人,大和町は5,196人である。市の総人口の推移をみると,昭和60年をピークに減少傾向が続いている。

中でも,中山間地域である久井町,大和町の人口の減少は著しく,「三原市人口ビジョン」における令和42年の推計値では,久井町は約2,000人,大和町では約3,000人になると予測されている。



出典：S35(1960)年～H27(2015)年…「国勢調査（各年10月1日）」総務省
R2(2020)年～R42(2060)年…「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供ワークシート（令和元年6月版）に基づく推計」
※S35(1960)年は,年齢3区分人口は非掲載。



出典：S35(1960)年～H27(2015)年…「国勢調査（各年10月1日）」総務省
R2(2020)年～R42(2060)年…「内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供ワークシート（令和元年6月版）に基づく推計」
※S35(1960)年は,年齢3区分人口は非掲載。

（出典：三原市人口ビジョン（改定版）令和2年3月策定）

（２）高齢化

市の高齢化率（総人口に対し、65歳以上の高齢者が占める割合）は、平成17年の25.6%から令和元年には34.5%まで上昇しており、高齢化が進んでいる。地域別では、久井町が平成17年の34.7%から令和元年の46.9%まで、大和町が平成17年の34.0%から令和元年の43.7%まで上昇しており、市内でも、久井町及び大和町は高齢化の進行が著しい。

（３）地理的特性

久井町、大和町には、日常生活を送るうえで必要な医療機関や小売店が少なく、多くの住民は、病院への通院や食料品等の買い物をするため、隣接する世羅町に外出している。

町内の小売店は、久井町には小規模小売店が3店舗、大和町には小規模小売店が1店舗で、スーパーマーケットなどの大規模小売店がない。

医療機関は、一般診療所が久井町に2か所、大和町に3か所で、診療科は少ない。この他、歯科診療所が久井町及び大和町にそれぞれ2か所のみである。

（４）公立世羅中央病院への通院状況

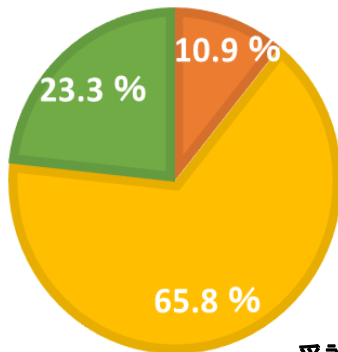
そうした中、久井町、大和町の多くの住民が、世羅町にある公立世羅中央病院へ通院している。公立世羅中央病院は、世羅町と三原市で設立した世羅中央病院企業団が経営する病院で、久井町及び大和町の中山間地域における中核病院として救急診療を担う医療機関である。18もの診療科があることから、久井町、大和町の住民にとって、安心して良質な医療サービスを受けることができる重要な施設であるといえる。

久井町、大和町からの公立世羅中央病院への受診者数を調査すると、平成27年度から平成31年度までの5ヵ年平均で延べ、久井町が6,618人、大和町が6,707人である。そのうち、70歳以上は、久井町が4,354人、（65.8%）大和町が4,312人（64.3%）で、受診者のほとんどが高齢者であることが分かった。（23、24 ページの資料を参照）

自宅から病院までの主な移動手段は、マイカーや路線バス、タクシー、家族による送迎などがあげられるが、路線バスは便数が少なく、地域公共交通との乗り継ぎに課題があるため、受診者の大半は、マイカーの利用や家族による送迎で通院していると思われる。

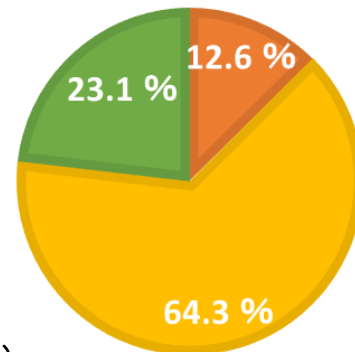
久井町

■ 60歳～69歳 ■ 70歳以上 ■ その他の年齢層



大和町

■ 60歳～69歳 ■ 70歳以上 ■ その他の年齢層



受診者の年齢割合（過去5年間）

（５）地域公共交通に関する住民の意見

買い物や通院で世羅町への移動を必要としている高齢者が多い中、その多くがマイカーを利用していると推測できることから、世羅町への移動方法に課題があるのではないかと考え、市民との意見交換会、地域への聞き取り、久井地区地域福祉ネットワーク会議福祉ネット久井や久井町自治区連合会が実施したアンケート、第2期三原市地域公共交通網形成計画の作成において市が実施したアンケート及び地域公共交通の利用者数等の調査結果から久井町、大和町の地域公共交通に関する住民の意見を把握した。

久井町及び大和町内を運行する地域公共交通

路線バス

市内や近隣地域間の連絡を支えるバスで、民間事業者により国道、主要地方道、県道等を中心に運行されている。久井町では、三原駅から世羅町まで、久井町から大和町までを連絡するバスが、大和町では、東広島市の河内駅から世羅町まで、久井町から大和町までを運行するバスが連絡している。

地域コミュニティ交通

「久井ふれあいバス」

久井町を運行区域とする路線定期運行バスで、久井町内の各地区と医療機関を連絡する。利用者は「久井ふれあいバス」のバス停で乗降する。

「大和ふれあいタクシー」

大和町を運行区域とするデマンド型・区域運行の乗合タクシーで、利用者の予約に応じて自宅から目的地の間をドア・ツー・ドアで送迎する。

ア 久井町住民の意見

(ア)「久井ふれあいバス」の利便性が低い

①高齢のため、自宅から「久井ふれあいバス」のバス停まで行くことが困難な方や、車両の乗降時に支援を要する方など、高齢者にとって利用しにくい状況がある。運行形態を自宅から目的地までをドア・ツー・ドアで送迎するデマンド方式に見直してほしい。

②病院、小売店、郵便局、農協、地域のサロン及び久井支所など、久井町内の行きたい場所に行くことができない。

③運行区域が久井町内に限られているため、町外への移動に利用することができない。

④路線バスの発着時刻に合わせて運行されていないため、通院時に利用が必要とされる午前中に、路線バスに乗り継いで世羅町に外出することができない。

(イ)路線バスの利便性が低い

①「便数が少ない」、「自宅からバス停までが遠い」、「運賃が高い」などの理由から、住民の満足度が低い。路線バスが有効な移動手段として機能していないため、住民はマイカーに依存せざるを得ない状況である。

イ 大和町住民の意見

(ア)「大和ふれあいタクシー」の利便性が低い

①運行区域が大和町内に限られているため、町外への移動に利用できない。

②路線バスの発着時刻に合わせて運行されていないため、路線バスに乗り継ぐことが困難であり、午前中に乗り継ぎができるのは1便のみである。世羅町への移動に利用できるよう運行形態を見直してほしい。

(イ)路線バスの利便性が低い

①「便数が少ない」、「自宅からバス停までが遠い」、「運賃が高い」などの理由から、住民の満足度が低い。路線バスが有効な移動手段として機能していない。住民はマイカーに依存せざるを得ない状況である。

(6) 地域公共交通の現状の分析

把握した住民の意見から、路線バスや地域コミュニティ交通の運行に課題があることが分かったため、久井町、大和町を運行する路線バスや地域コミュニティ交通が実際どのように運行されているのか、運行状況や利用状況を調査した。

ア 久井町の現状

久井町を運行する路線バスは、広域連絡路線バスとして、三原駅前から世羅町を連絡する甲山・三原線 1 路線のほか、地域間連絡路線バスとして、久井町と大和町をつなぐ、徳良線 1 路線である。

路線バスのほか、地域内の移動を支えるサービスとして、市が運行主体を担う地域コミュニティ交通「久井ふれあいバス」を運行されている。

久井ふれあいバスは、路線定期運行バスで、久井町の各地区と医療機関を連絡するため、5 つの運行路線を週 2 日、1 日 2 往復運行している。かつて、久井町へき地患者輸送バスとして運行していたバスを見直して導入されたため、通院時に利用する場合の利用料金は、現在も無料である。

平成 23 年 10 月に事業を開始し、本年度で 9 年目を迎えるが、総利用者数は平成 27 年度の 3,845 人から平成 31 年度は 2,216 人まで減少している。利用者のうち、通院目的で利用する人が 1,922 人 (86.7%) とともに多い。

収支状況では、平成 31 年度は事業費 5,994,331 円に対し、運賃収入が 443,200 円、経常収支率は 7.4% と低く、市が定める地域コミュニティ交通の運行見直し基準である経常収支率 10% を下回っていることや今後も利用者数の増加が見込めないことから、運行形態の見直しが必要である。

イ 大和町の現状

大和町における路線バスは、広域連絡路線バスとして、東広島市の河内駅から世羅町までを連絡する河内・甲山線 1 路線と、地域間連絡バスとして久井町と大和町をつなぐ、徳良線 1 路線が運行されている。

路線バスのほか、地域内の移動を支えるサービスとして、地域が運営主体を担った地域コミュニティ交通「大和ふれあいタクシー」が運行されている。

「大和ふれあいタクシー」は、デマンド型・区域運行の乗合タクシーで、大和町を 3 地区に区分し、各地区に配置された 1 台のジャンボタクシーが予約に応じて自宅から目的地の間をドア・ツー・ドアで、週 3 日、1 日 12 便運行されている。

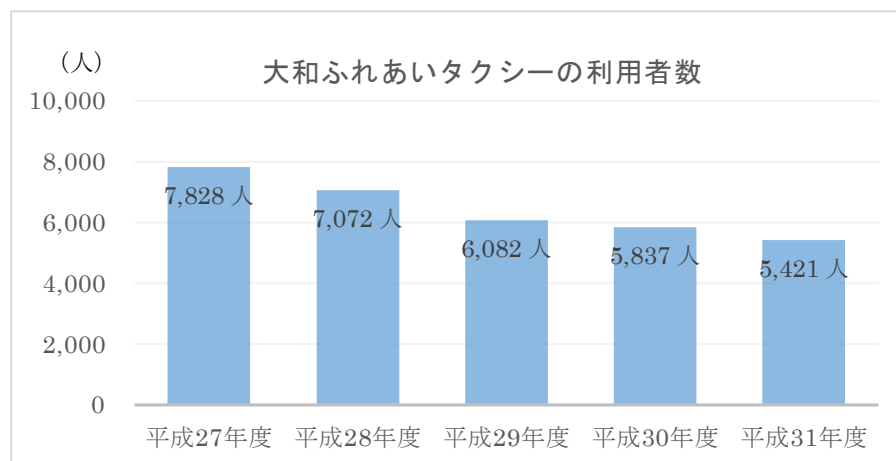
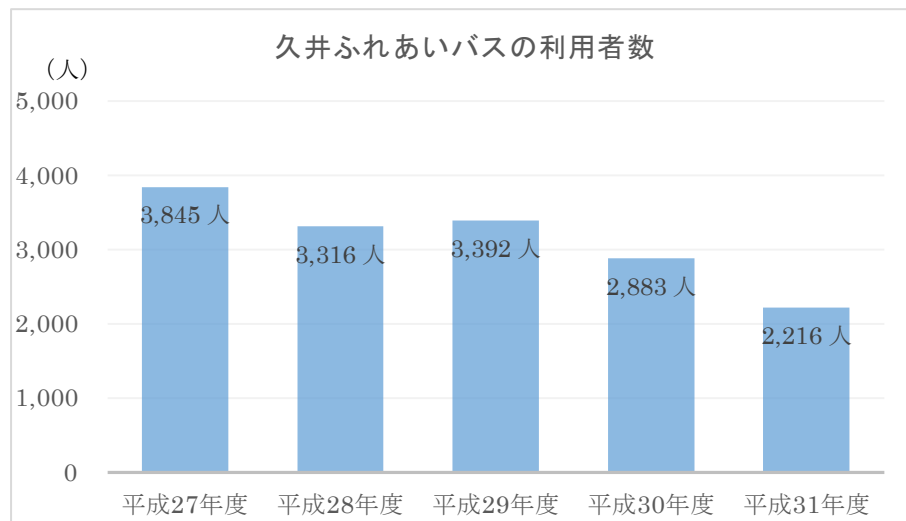
平成 15 年 12 月の事業開始以降, 運行日数や運行主体の見直しを経て, 本年で 17 年目となるが, 平成 27 年度には 7,828 人であった総利用者数は平成 31 年度には 5,421 人まで減少している。

収支状況については, 平成 31 年度の経常収支率は 13.0% であるため, 早急に運行の見直しを必要とする状況ではないが, 利用者数は減少傾向にあるため, 交通弱者の移動手段としての運行継続を考えると, 住民のニーズに合った見直しが必要である。



図 本市の主な地域公共交通

(出典) 第 2 期三原市地域公共交通網形成計画 (令和 2 年 3 月策定)



第2章 調査から見えてきた課題

地域公共交通に関する住民の意見を踏まえ、久井町、大和町を運行する路線バスや地域コミュニティ交通の運行状況や利用状況を調査した結果をもとに、次のとおり課題を整理した。

(1) 久井町

ア 高齢化率が 46.9%を占める中で、移動手段を持たない高齢者やマイカーに依存せざるを得ない高齢者にとって、町内を移動するための利便性の高い交通手段が必要である。

イ 町内での移動手段の見直しが必要なことに加え、町内に小売店や病院が少なく、住民の多くが世羅町へ出かけていることを考えると、世羅町へ行くための新たな交通手段の検討が必要である。

(2) 大和町

ア 現状の「大和ふれあいタクシー」はある程度機能しているものの、町内に小売店や病院が少なく、高齢者の多くが世羅町へ出かけていることを考えると、世羅町へ行くための新たな交通手段の検討が必要である。

第3章 課題解決の方向性

課題の解決に向け、住民のニーズに応じた地域公共交通の再構築が必要という観点から、「高齢者などの交通弱者が、自由に病院や買い物に行くことができる地域公共交通への見直し」を目標に設定し、解決策を検討した。

	課 題	課題解決の方向性	解決策
久井町	ア 移動手段を持たない高齢者やマイカーに頼っている高齢者にとって、町内を移動するための利便性の高い交通手段が必要である。	久井町内における移動手段の見直しを行う。	久井町内にデマンド型乗合タクシーを導入する。
	イ 通院や買い物をするために、世羅町へ行くための有効な交通手段が必要である。	町外（世羅町）への移動手段を検討する。	久井町及び大和町の各町から世羅町へ運行するデマンド型乗合タクシーを導入する。
大和町	ア 通院や買い物をするために、世羅町へ行くための有効な交通手段が必要である。		

第4章 政策提案

久井町、大和町における地域公共交通の見直しを提案する。

【 提案 1 】

久井町において、久井町内を運行区域とするデマンド型乗合タクシーを導入する。

(1) 具体的な政策案

デマンド型乗合タクシーが未導入である久井町に導入を提案する。導入にあたっては、既に導入している「大和ふれあいタクシー」を参考とする。

久井町において運行されている「久井ふれあいバス」は、利用者が減少しており、高齢者が利用しやすい運行方法への見直しが求められている。このことから、「久井ふれあいバス」を廃止し、高齢者等の交通弱者が自宅から目的地までドア・ツー・ドアで利用できるデマンド型・区域運行乗合タクシー（以下「デマンド型タクシー」という。）の導入を提案する。

運行区域は久井町全域とし、町内にジャンボタクシーを2台程度配置し、利用者による運行予約に応じて自宅と目的地をドア・ツー・ドアで送迎する。デマンド型タクシーの運行形態については、次の①から⑬までを提案する。

表1 デマンド型タクシーの運行形態

項 目	形 態
① 運行方式	ドア・ツー・ドア方式
② 運行主体	町内会等組織
③ 運行車両	ジャンボタクシー（10人乗りワゴン車） 2台
④ 運行区域	久井町全域
⑤ 運行日数	平日のみ運行（週3日）
⑥ 運行時間帯	8時から16時まで
⑦ 運行便数等	1日の運行便数、発車時刻を設定
⑧ 利用料金	均一料金 1乗車 : 300円 敬老優待 : 200円 障害者優待 : 無料

⑨ 利用対象者	久井町内に居住する人
⑩ 利用者登録	あり
⑪ 予約期限	利用日当日の各便発車時刻の 1 時間前まで
⑫ オペレータの雇用	あり。運行主体による雇用
⑬ 運行事業者	久井町内のタクシー事業者

① 運行方式

地域公共交通には、路線定期型運行とデマンド型タクシーがある。その一般的な特徴として、路線定期型運行は、利用者の有無に関わらず、定められたルートを定時に運行し、利用者は運行ルート上に設置されたバス停で乗降するが、デマンド型タクシーは、電話予約による利用者のニーズに応じて、柔軟な運行を行う地域公共交通である。

市内の他地域で導入しているデマンド型タクシーは、ドア・ツー・ドア方式を採用しており、利用者の自宅から目的地までを運行するため、バス停まで歩く必要がないなど、特に高齢者にとっては便利な交通手段である。

現在、久井町においては、路線定期型バス（久井ふれあいバス）が運行されているが、久井地区地域福祉ネットワーク会議福祉ネット久井が、町内の「ふれあいいきいきサロン」利用者にアンケートを実施したところ、久井ふれあいバスについて、利用料が安価であること、予約なしで外出ができること、マイカーの運転が困難になっても利用できるという点で利便性を感じている方がいるものの、停留所以外で乗り降りができない、利用したい時間に運行していない、久井町内の行きたい場所に行けないなどの理由から、町内での移動における新たな支援策として、デマンド型タクシーの導入を希望する方が多い状況であった。また、バス停に行くことが困難であるという意見も出ていることを考えると、今後さらに高齢化が進むと予測される久井町においては、高齢者の移動負担を軽減でき、自宅から目的地まで移動できるドア・ツー・ドア方式による運行が望ましい。

② 運行主体

運行主体については、市が運行主体となる場合と、地域など市以外が運行主体となる場合が考えられるが、導入後の運行サービスを維持するためには、地域内で利用の促進を図り、地域住民が十分に支え、守るといった意識が必要であり、市内の他地域での運営事例を参考に、地元町内会等の組織による運営が望ましいと考える。運営にあたっては、地元組織の負担を軽減するため、市による丁寧なサポートが望ましい。

③ 運行車両

運行車両については、地域内の狭小な道路を運行することができ、10人程度の乗車が可能なジャンボタクシーが、ふさわしいと考える。



(出典) 三原市地域公共交通網形成計画概要版

④ 運行区域

運行区域は久井町全域とする。(【提案2】では、この区域に加え、世羅町の一部を区域として提案する。)

久井地区地域福祉ネットワーク会議福祉ネット久井が「ふれあいいきいきサロン」に通う高齢者に実施したアンケート調査によると、久井町内での高齢者の主な外出先は、小売店、病院、郵便局、JA、久井支所、久井保健福祉センター、地域サロン等であった。町内の行きたい場所に出かけることができるよう、提案1では運行区域を久井町に限定することが適当であると考ええる。

⑤ 運行日数

久井地区地域福祉ネットワーク会議福祉ネット久井が「ふれあいいきいきサロン」に通う高齢者に実施したアンケート調査及び久井町内の全世帯に実施したアンケート調査の結果によると、外出の頻度は週に1回及び二日に1回、通院は月に1回程度であった。高齢者の主な外出先である久井町内の施設(小売店、病院、郵便局、JA、久井支所、久井保健福祉センター、地域サロン等)の営業日等を考慮すると、平日の週3日程度の運行が適当であると考ええる。

⑥ 運行時間帯

久井町内の主な外出先へ出かける際の利用が想定されるため、市内の他地域で実施しているデマンド型タクシーの運行時間帯と同様に8時から16時までが適当と考える。

⑦ 運行便数等

予約による運行ではあるが、運行便1回あたりの乗り合い人数が多くなるように1日の運行便数と発車時刻を設定することが望ましい。運行便数や各便の発車時刻を設定することで、利用者は予約を行いやすくなると考える。

⑧ 利用料金

デマンド型タクシーを導入している市内の他地域と同様の料金設定が適当である。(1乗車：300円，敬老優待：200円，障害者優待：無料)

料金設定においては，現在，通院時に「久井ふれあいバス」を無料で利用している方にとっては，デマンド型タクシーに替わることで，有料で利用することになるため，低い価格での設定が望ましい。

⑨ 利用対象者

久井町内の全ての方が利用できることが望ましい。

⑩ 利用者登録

オペレータが利用予約の電話を受ける際に乗車場所である利用者の自宅等を速やかに把握し，配車指示を行えるようにするため，また，利用者が安心して電話予約を行えるようにするため，利用者登録をすべきと考える。

⑪ 予約期限

当日の予約を可能とするため，予約期限は各便発車時刻の1時間前までが望ましい。

⑫ オペレータの雇用

地域の状況や利用者の状況を把握したうえで，適切な予約支援を行うため，専属のオペレータは必要であり，運行主体による雇用が望ましい。予約受付にあたっては，「タクシー予約管理システム」を導入し，オペレータが電話で予約を受け付け，予約情報の登録や運行計画の作成等を行う。

⑬ 運行事業者

久井町内の地理を把握した事業者による運行が望ましいことから，町内の2社を中心としたタクシー事業者が適当であると考え。

(2) 経 費

久井ふれあいバスを廃止して，デマンド型タクシーを導入した場合の運行経費について，市内でデマンド型タクシーを導入している本郷町，大和町及び八幡町の平成31年度運行事業費実績を参考に試算したところ，年間運行事業費は2,000千円，市負担額は3,000千円程度の増加が見込まれた。しかし，今後さらに高齢化が深刻になることを踏まえると，高齢者等の交通弱者の移動手段の確保は重要であり，市の負担が増えたとしてもデマンド型タクシーに転換すべきと考える。

表2 運行形態を変更した場合の年間運行事業費

(単位：円)

		運行事業費	運賃収入	国補助金額 ※2	市負担額
変更後	デマンドタクシー(週3日)	8,000,000	560,000	1,000,000	6,440,000
変更前	久井ふれあいバス(週2日) ※1	5,994,331	17,500 (443,200 ※3)	2,767,000	3,209,831
差引額		2,005,669	542,500	△1,767,000	3,230,169

※1 「久井ふれあいバス」は、5つの運行ルートを、それぞれ週2日、運行している。

※2 「久井ふれあいバス」の運行に活用している国の補助事業「地域公共交通確保維持改善事業(表3を参照)」は、運行形態をデマンド型タクシーに転換した場合も、活用することができるが、「久井ふれあいバス」の路線定期運行とデマンド型タクシーでは運行内容が異なるため、補助金額は減額になる見込み。

※3 優待乗車補填金相当額を含む。経常収支率の計算は、こちらの金額を用いる。

表3 国の補助事業

事業名	地域公共交通確保維持改善事業
補助対象経費	事業者時間当たり経常費用×補助対象事業者のサービス提供時間
補助率	1/2
主な補助要件	国庫補助を受ける地域間幹線系統バスを補完するもの

対象幹線系統バス：甲山三原線（中国バス）

(3) 導入による効果

(ア)地域公共交通の利便性が向上することで、高齢者にとって生活しやすい環境を整えることができる。

①自宅や自分の行きたい場所で、乗り降りすることができるため、高齢者にとって移動時の負担が軽減される。

②バス停から遠い場所に住んでいる人や高齢のため、バス停まで行くことが困難な人にとって、利用しやすい移動手段が確保される。

③高齢者が移動しやすい環境が整うことで、移動範囲が広がり、外出機会が増える。

④高齢者のマイカーの利用機会を減少させることができる。

⑤家族による送迎で外出している人が、家族に頼ることなく、自分で目的地まで行くことができる。

⑥タクシーを利用して外出していた人が、タクシーよりも低料金で目的地へ行くことができるため、経済的な負担が軽減される。

【 提案 2 】

久井町及び大和町から世羅町へ送迎するデマンド型タクシーを導入する。

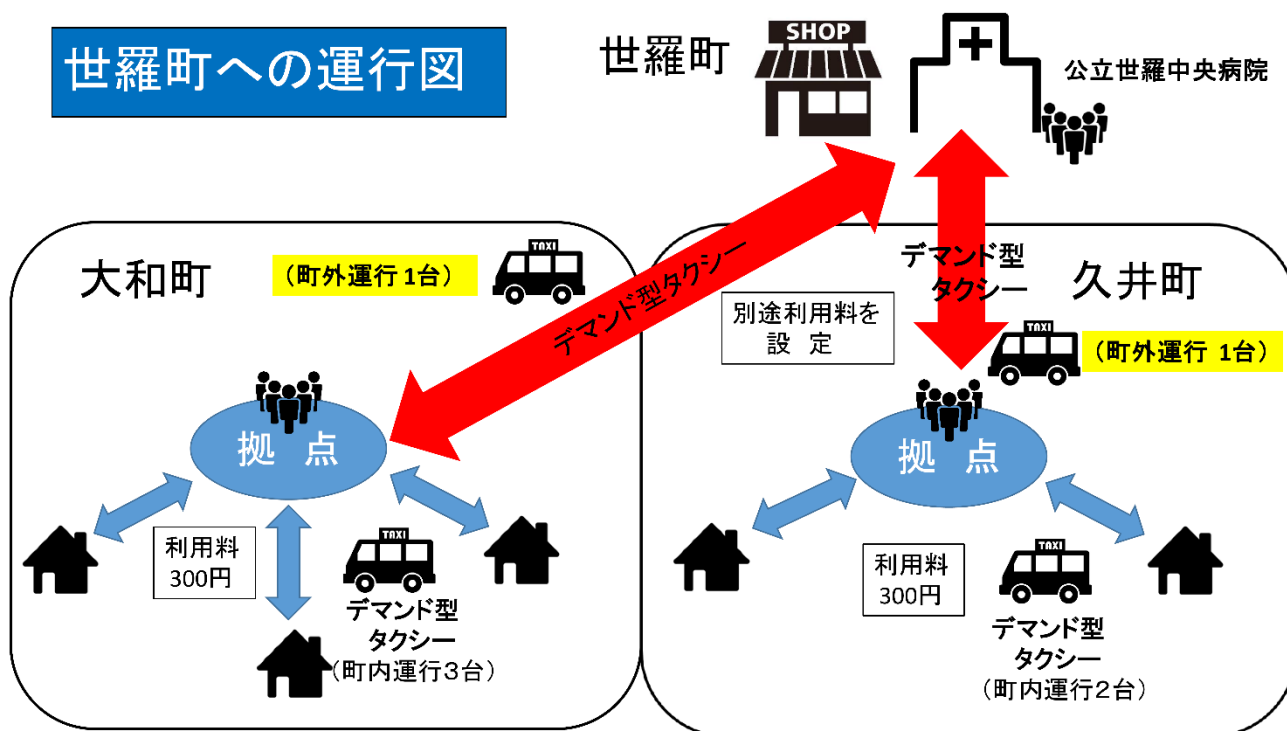
(1) 具体的な政策案

久井町においては、今回の提案1に加え、また、大和町においては既存のデマンド交通を見直し、久井町及び大和町における高齢者等が、通院や買い物をするために世羅町へ外出することができるよう、世羅町へ送迎する町外運行専用のデマンド型タクシーを久井町及び大和町に導入する。

久井町及び大和町それぞれに拠点を1ヶ所設置し、世羅町への移動希望者を各町の拠点に集め、町外運行専用のデマンド型タクシーが拠点から世羅町までを送迎できるようにする。町外運行専用のデマンド型タクシーは久井町と大和町に各1台配置するものとする。

なお、自宅から拠点までの送迎は、町内を運行するデマンド型タクシー(以下「町内運行用デマンド型タクシー」という。)を利用するものとし、この場合、世羅町へ運行するデマンド型タクシーの発車時刻にあわせて、町内運行及び町外運行の両方において、利用予約を行う必要がでてくる。

世羅町へ運行するデマンド型タクシーの運行形態については、次の①から⑭までを提案する。



① 運行方式

運行方式は、ドア・ツー・ドア方式とし、久井町及び大和町の各拠点から世羅町内の公立世羅中央病院や商業施設までの間を運行するものが望ましい。

② 運行主体

世羅町へのデマンド型タクシーの利用は、町内運行用デマンド型タクシーとの連携が不可欠であるため、地元町内会等の組織が運行主体となり、町内運行用デマンド型タクシーとあわせて運営することが望ましい。

③ 運行車両

運行車両について、世羅町への外出希望者を拠点に集めて送迎するため、ある程度の人数の乗車が可能な車両が望ましい。利用者数の予測が困難なこともあり、まずは、10人程度の乗車が可能なジャンボタクシーによる運行から始めてはどうかと考える。

④ 運行区域

世羅町での通院や買い物を可能とするために導入することから、運行する目的地を限定し、運行区域を各町の拠点から世羅町の公立世羅中央病院や商業施設までの区域としてはどうかと考える。

⑤ 運行日数

町内運行用デマンド型タクシーと組み合わせて利用するため、久井町及び大和町における町内運行用デマンド型タクシーの運行日数と同様とし、週3日かつ同じ曜日の運行が望ましい。

⑥ 運行時間帯

利用目的を世羅町への通院や買い物に限定するため、公立世羅中央病院の診療が集中している午前中（診療科目全18科目のうち、14科目が受診可能）を中心とした運行が望ましい。通院の帰りに買い物することを想定し、運行時間帯は8時から14時までが適当であると考え。

⑦ 運行便数等

利用者を各町の拠点に集めて運行するため、運行便数及び各便の発車時刻の設定は必要であると考え。

⑧ 利用料金

町外へ運行するため、利用者に利用料金の一部負担を求めるものとし、別

途、料金の設定が必要と考える。

料金の設定にあたっては、路線バスの運行サービス継続のため、路線バスの利用料よりも高く、タクシー運賃よりも安い価格が望ましい。

⑨ 利用対象者

久井町及び大和町の住民とし、それぞれの居住地域で運行するデマンド型タクシーを利用するものとする。

⑩ 利用者登録

町内運行用デマンド型タクシーの登録者については、再度の登録を不要とし、未登録者については登録すべきと考える。

⑪ 予約期限

当日の予約を可能とするため、予約期限は各便発車時刻の1時間前までが望ましい。

⑫ オペレータの雇用

町内運行用デマンド型タクシーとの連携が不可欠であるため、町内運行用デマンド型タクシーのオペレータによる予約受付が望ましい。町内運行用デマンド型タクシーの予約とあわせて受け付けする必要があると考える。

⑬ 運行事業者

町内運行用デマンド型タクシーの運行事業者による運行が適当である。

⑭ その他

世羅町への運行は、市域を超え、世羅町の一部の地域を運行エリアとして設定することとなるため、デマンド型タクシーの導入にあたって、世羅町地域公共交通活性化協議会との協議及び調整が必要である。

(2) 経 費

久井町及び大和町において、それぞれの拠点から世羅町へ運行するデマンド型タクシーを新たに各1台導入して運行する場合の年間運行事業費は、久井町、大和町それぞれ4,000千円が見込まれる。この場合、国等の補助事業の活用は難しい。

市の負担は増えるが、高齢者等の交通弱者が世羅町へ通院や買い物に行くための移動手段を確保することは重要であり、世羅町へ運行するデマンド型タクシーを新たに導入すべきと考える。

表 4 町外運行専用デマンド型タクシーを導入した場合の年間運行事業費等

(単位：円)

		久井町		大和町	
		運行事業費	市負担額	運行事業費	市負担額
変更後	町内運行用 デマンド型 タクシー	8,000,000	6,440,000	12,462,690	11,592,956
	町外運行用 デマンド型 タクシー	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
変更後の合計額		12,000,000	10,440,000	16,462,690	15,592,956
変更前		5,994,331	3,209,831	12,462,690	11,592,956
差引額		6,005,669	7,230,169	4,000,000	4,000,000

(3) 導入による効果

(ア) 世羅町へ行くための有効な交通手段が確保されることで、高齢者にとって、通院や買い物に行きやすい環境が整う。

①マイカーを利用して世羅町へ外出している高齢者の運転機会を減らすことができる。

②家族による送迎で世羅町へ外出している人が、家族に頼ることなく、自分で外出することができる。

③タクシーを利用して外出していた人が、タクシーよりも低料金で世羅町へ行くことができるため、経済的な負担が軽減される。

おわりに

中山間地域の社会資本の整備は立ち遅れ、特に「安心」して生活を営むための「生活基盤の整備」は、過疎・高齢化が進む中山間地域においては深刻な問題となっている。生活の場である集落と、福祉・医療施設、商業施設とは遠く離れており、これら施設への移動手段「地域公共交通」の整備は、人々の生活を左右する極めて重要な課題である。中山間地域が抱える様々な課題を認識した上で、維持・活性化に向けて着実な対応を進めていくためには、今まで以上に総合的、計画的、重点的な中山間地域対策の実施が求められるところであり、現在の体制を生かしながらさらに実効性の高い施策展開を図ることが必要である。

本委員会では、市北部の中山間地域の地域公共交通として、久井町及び大和町における交通弱者の移動手段について調査・研究を行った。久井町及び大和町においては、高齢化が深刻な状況であり、現在、すすめられている地域公共交通施策の見直しが求められている状況であった。

今回、本提案において、高齢者などの交通弱者が自由に通院や買い物に出かけることができる地域公共交通を目ざして、地域公共交通施策の見直しを提案している。

市長にあっては、本提案を踏まえ、地域住民と行政機関そして交通事業者等で連携を図りながら取り組みを進めてもらいたい。

本提案が、高齢者等の移動における利便性の向上及び本市の地域公共交通の発展の一助となれば幸いである。

最後に、この調査・研究をすすめるに当たり、市民との意見交換会や地域への聞き取り調査等で貴重なご意見をいただいた市民の皆様及び関係団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

資 料

1 公立世羅中央病院の受診者数

(1) 久井町からの受診者

【年度別受診者数】

(人)

久井町	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	男	3,421	男	3,210	男	3,274	男	3,226	男	3,108
	女	3,403	女	3,407	女	3,154	女	3,285	女	3,600
	計	6,824	計	6,617	計	6,428	計	6,511	計	6,708

受診者数の5ヵ年平均
6,618人

【年齢別受診者数】

(人)

久井町	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
0歳～19歳	16%	1,060	13%	889	14%	900	13%	823	12%	825
20歳～29歳	1%	80	1%	48	1%	57	1%	49	1%	53
30歳～39歳	1%	100	1%	96	2%	107	2%	100	2%	107
40歳～49歳	4%	252	3%	222	3%	223	4%	237	4%	257
50歳～59歳	3%	214	3%	192	4%	245	4%	262	5%	312
60歳～69歳	9%	624	11%	729	12%	763	11%	722	11%	768
70歳以上	66%	4,494	67%	4,441	64%	4,133	66%	4,318	65%	4,386
計	100%	6,824	100%	6,617	100%	6,428	100%	6,511	100%	6,708

70歳以上受診者数の
5ヵ年平均
4,354人(65.8%)

全受診者数	80,722人	76,916人	78,605人	78,951人	77,182人
久井町の割合	8.45%	8.60%	8.18%	8.25%	8.69%
3月31日 時点の人口	4,585人	4,470人	4,361人	4,286人	4,193人

(2) 大和町からの受診者

【年度別受診者数】 (人)

大和町	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	男	3,481	男	3,253	男	3,595	男	3,224	男	3,364
	女	3,421	女	3,255	女	3,254	女	3,413	女	3,275
	計	6,902	計	6,508	計	6,849	計	6,637	計	6,639

受診者数の5カ年平均
6,707人

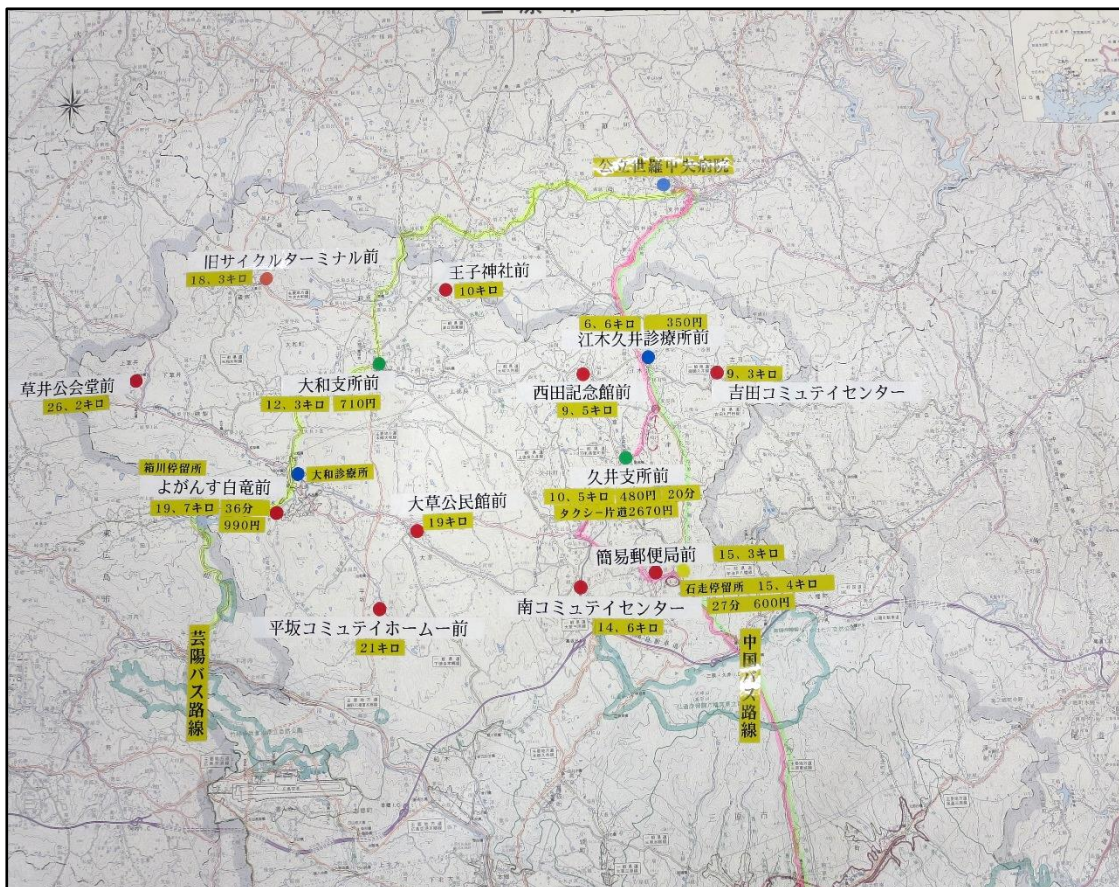
【年齢別受診者数】 (人)

大和町	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
0歳～19歳	11%	779	11%	738	10%	719	8%	521	9%	604
20歳～29歳	2%	145	2%	141	2%	144	2%	120	2%	134
30歳～39歳	3%	187	2%	145	2%	143	2%	122	2%	154
40歳～49歳	2%	169	3%	171	3%	236	4%	259	4%	268
50歳～59歳	5%	350	5%	357	5%	371	6%	387	6%	399
60歳～69歳	9%	647	11%	744	12%	818	15%	966	16%	1,035
70歳以上	67%	4,625	65%	4,212	65%	4,418	64%	4,262	61%	4,045
計	100%	6,902	100%	6,508	100%	6,849	100%	6,637	100%	6,639

70歳以上受診者数の
5カ年平均
4,312人(64.3%)

全受診者数	80,722人	76,916人	78,605人	78,951人	77,182人
大和町の割合	8.55%	8.46%	8.71%	8.41%	8.60%
3月31日 時点の人口	5,977人	5,740人	5,535人	5,376人	5,196人

2 公立世羅中央病院までの距離と路線バス及びタクシーの利用料金



(1) 久井町

	乗車地点	距離(km)	利用料金 (円)	
			路線バス	タクシー
1	江木 (久井診療所前)	6.6	350	1,892
2	吉田 (吉田コミュニティセンター前)	9.3	—	2,571
3	泉(西田記念館前)	9.5	—	2,621
4	和草 (久井支所前)	10.5	480	2,670
5	山中野 (南コミュニティセンター前)	14.6	—	3,903
6	坂井原 (簡易郵便局前)	15.3	600	4,079

(2) 大和町

	乗車地点	距離(km)	利用料金 (円)	
			路線バス	タクシー
1	福田 (王子神社前)	10	—	2,974
2	下徳良 (大和支所前)	12.3	710	3,599
3	蔵宗 (旧サイクルターミナル前)	18.3	—	5,230
4	大草 (大草公民館前)	19	—	5,421
5	和木 (よがんす白竜前)	19.7	920	5,611
6	平坂 (平坂コミュニティホーム前)	21	—	5,965
7	下草井 (草井公会堂前)	26.2	—	7,378